

チャレンジ ワークシート①

名前	組 番	月 日	正答数
			8

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

砂漠さばくやそれに近い乾燥かんそうした土地には、なぜサボテンのようにトゲを生やした植物が多くなるのだろうか？

アメリカでもアフリカでも、中東でも、アジアでも、砂漠の植物にはトゲだらけのものが多い。かわいい花①が目に入っても、いきなりそれを摘つもうとしてはいけない。たいていはトゲでイタイ目アイにあう。

こういう植物はトゲで身を守っているのだ、と本には書いてある。植物の葉をむしゃむしゃと食べてしまう動物が近づけぬようにしているのだそうだ。

たしかに、アフリカのサヴァンナに生えているアカシアの木はトゲだらけだ。でもキリンは長い丈夫イな舌いづなでそのトゲだらけの木の葉を平気で食べてしまう。トゲは身を守るうえでばんのうけつして万能ばんのうではない。

砂漠とかぎらず、どこ③に生えている植物だって、自分の葉が動物に食われてうれしいはずがない。そこで葉を硬かたくしたり、ワックス④(ロウ)を分泌ぶんびつしたりして、なるべく食べられにくいようにしている。

砂漠の植物はおそらくそれができなかつたのである。葉っぱを厚く硬くしたら、砂漠のあの暑さでは葉っぱが熱あつくなってどうにもならないだろう。では、葉そのものは薄うすくして、表面をかじりにくいワックスで一面におおったらどうだろう。しかし、気温五十度を超こえる砂漠では、ワックスなどすぐ融とけてしまうにちがいない。

⑤ そうなれば、トゲしかない。トゲなら熱がこもることもないし、融けることもない。でもどうやってトゲをつくったらよいか？

その答えはきつとかんたんだったにちがいない。つまり、葉っぱをトゲに変えてしまえばよいのだ。

サボテンをはじめとして、砂漠地帯や乾燥地帯の植物には、葉っぱをトゲにしてしまった植物がたくさんある。葉っぱは植物にはもともと生えているものだから、材料にはこと欠かない。それをトゲにしてしまうのはかんたんである。生物⑥にはこのようにおそろしくケチで怠慢たいまんなところがある。あつと驚おどろくような新発明をやったのけることはまずけつしてない。みんな有り合わせのものの活用である。

(日高敏隆「動物の言い分 人間の言い分」より)

チャレンジワークシート①

POINTトクポイント

- (1) 痛い
- (2) じょうぶ
- (3) 4
- (4) 七
- (5) 葉っぱを厚
- (6) しかし、気
- (7) 葉っぱ
- (8) 有り合わせのもの・活用

- (5) 次の段落で、砂漠さばくの植物が葉を硬かたくしたり、ワックス(ロウ)を分泌ぶんびつしたりすることができなかった理由を説明している。
- (7) 次の段落で、この問いに対する答えを述べている。
- (8) もともとある葉っぱをトゲにしてしまうように、「有り合わせのものものの活用」で済すますことを「ケチで怠慢たいまん」と表現している。

チャレンジ ワークシート②

名前	組 番	月 日	正答数
			8

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たった一年のあいだに、自分のそばから三人もの親しい人がいなくなってしまった。そのことを、美幸は考えている。あと数カ月で、もう一人いなくなってしまう。体育大学に推薦入学がきまれば、姉の美穂は学生寮へ入ることになる。

昨夜も夕食が終わったあとで、

「大学の陸上部からの話だと、三月に入ったらすぐ練習に参加してほしいんだって。」

と、美穂が言いだした。

「たぶん新人合宿ね。……とすると、そのまま寮生活のはじまりってことになるわ。」

「あら、入学式の前に?」

母が、びつくりしたようにきいた。美穂との話を楽しんでいるような感じだった。

「今年入学した先輩が言ってたけど、合宿で新人の適性をチェックするらしいの。たとえば、いま短距離中心にやってるけど、ハイジャンプの適性があれば、そっちへ転向するとか。」
姉の興奮ぎみな話しぶりを、美幸は冷やかに聞いていた。大学入学や陸上部のことばかり話しているのが気に入らなかった。

——合宿とか寮とか、うれしそうに言ってるけど、そのために家族がばらばらになっちゃうことには気がついていないようね。お姉さんってきらいよ。いつも自分のことばかりしか考えてないんだもの。

姉が家をはなれていくと、美幸と母の二人きりになる。父が亡くなったあと、三人で肩をよせあつてきたのに、その絆がこわれてしまう。それが美幸には悲しかったのだ。

「ねえ、美幸。……どうかしら?」

と、とつぜん母が言った。

「美穂が寮に入ったら、わたしたちもここから引越しまししょうか。来年は、あなたも高校入学なんだから、その学校に近いところで暮らしたほうが便利だと思うけど。」

「……引越すの?」

思いがけない話だった。母が引越しを考えているとは意外だった。

⑤ そのことが、昨夜からずっと美幸のムネにわだかまりつづけている。

美幸はイチョウの梢を見あげた。秋の陽射しが葉叢を斜めに切りつけていて、その部分だけ葉が黄色く見えた。

——引越してしまうと、あたしまで、ここからいなくなってしまうわけね。

(内海隆一郎「みんなの木かげ」より)

- (1) く(らした)
- (2) 胸
- (3) (姉の)美穂
- (4) 十
- (5) 2
- (6) 興奮・楽しんで
- (7) 3
- (8) 母が引っ越しを考えている

- (3) 直後に、「体育大学に推薦入学がきまれば、姉の美穂は学生寮へ入ることになる」とある。「姉」でも正解。
- (6) 9行めに「美穂との話を楽しんでいるような感じ」、12行めに「姉の興奮ぎみな話しぶり」とある。
- (7) 直後に、美幸の心の中の言葉が書かれている。「合宿とか寮とか……そのために家族がばらばらになっちゃうことには気がついていないようね」という部分に注目する。
- (8) 直前の一文から指示内容を読み取ってまとめ。